ふれあいひろば

第34・35号

2022年３月１日発行　発行者　四中地区市民委員会　文化広報部

四中地区：人口 23,008 人　男 11,373 人　女 11,635 人　世帯数 10,495 世帯　R４.１.１ 現在

東日本大震災から10年が経過

四中地区公民館の敷地に建つ防災行政無線塔

就任ご挨拶

館長
清　水　　剛

令和三年十月から四中地区公民館長の大役を担うことになりました。

四中地区公民館の今まで積み重ねてきた地域においての役割を考え、地域の発展のため、公民館運営を進めていきたいと考えています。

二年前からの新型コロナウイルス感染症防止のため、公民館まつりをはじめ、様々なイベントが中止になり、貸館についても休館とさせていただいた時期が発生したため、利用者の皆様にはご迷惑をお掛けしました。

公民館といたしましては、今後も皆様のご健康を配慮しつつ、地域の学び・交流の場として、ご来館いただけるよう努めてまいります。

結びに、公民館運営に際して、様々なご尽力をいただいている方々にお礼を申し上げます。

今後とも皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

専門部役員紹介

福祉部
部　長　為頭　れい子
副部長　菱沼　喜夫
〃　狩谷　一枝

安全部
部　長　落合　榮一
副部長　皆藤　修樹
〃　本田　章二

スポーツ健康部
部　長　樋口　洋一
副部長　内藤　栄治

環境部
部　長　松尾　安子
副部長　佐野　正枝
〃　金子　愛子

文化広報部
部　長　岡田　孝之
副部長（兼広報紙編集担当）　海老澤　賢治
〃　野口　貴代

青少年育成部
部　長　飯田　美恵子
副部長　菊地　敏子
〃　高野　ゆり子

市民委員会総会が書面決議で実施

今年度の市民委員会総会は、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から書面による議案

報告第1号　令和2年度　事業報告
認定第1号　令和2年度　決算報告
議案第1号　役員の選任（案）
議案第2号　令和3年度　事業計画（案）
議案第3号　令和3年度　予算（案）

の決議を送付し、5月28日提出締切で書面会議が行われ、各議案における書面表決の集計結果は、

報告第1号については、
賛成190、反対0、無効0
認定第1号については、
賛成190、反対0、無効0
議案第1号については、
賛成190、反対0、無効0
議案第2号については、
賛成189、反対1、無効0
議案第3号については、
賛成190、反対0、無効0

により、それぞれの議案については、回答数の過半数の賛成をもって承認・認定・可決された。

前期公民館講座

1 初夏の寄せ植え講座
初夏の寄せ植え＆テラリウム作り

2 リラックスアロマヨガ
アロマの香りで心と体をリラックス！

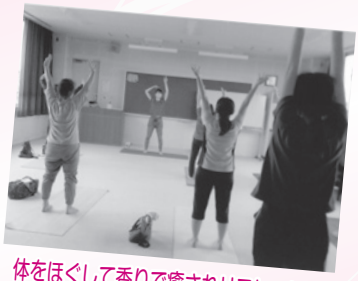
3 バランスボール
バランスボールで美しい姿勢に！

4 孔版画で暑中見舞いを送ろう
切り抜き版で水彩画

5 （オンライン講座）色を味方にして オンライン会議・面接に活かそう!
色を味方にして印象アップ

6 ハザードマップの見方講座
※新型コロナウィルス感染拡大に伴い、後期に延期

夏を涼しげにしたいわ。


体をほぐして香りで癒されリフレッシュ

人気のバランスボール、体感力UP

手作り暑中見舞い、楽しみだわ。

まちづくりの実践をたたえる表彰

令和3年度「まちづくりの実践をたたえる表彰」が、令和4年1月22日（土）、県南生涯学習センターにおいて行う予定であったが、授与式が急きょ中止となった。同表彰は、積極的にまちづくり活動を行い多大な功績をあげた個人14名および2団体に対し、土浦市まちづくり市民会議より感謝状が授与された。

なお、四中地区地域から今年度表彰された個人および団体は、次のとおり（敬称略）。

【個人の部】

●関　卓三（桜ケ丘町）

―防犯・青少年育成16年間―

長年にわたり、町内防犯パトロール活動、桜南地区交通安全活動に従事している。また、地区内小中学生の登校下校見守り立哨や近隣不審者出没時の見まわりなど、地域の子供達のサポートを自発的に実施しており、子どもや保護者をはじめ、町内の方々から感謝されている。

●猪狩　正英（下高津二丁目）

―環境美化・防犯活動10年間―

長く、ひばり団地自治会の会長および町内会役員を務め、地域の安全なまちづくりに貢献し、特に月1回の夜間パトロールに積極的に参加し、地域住民から感謝されている。

また、花いっぱい運動にも積極的に参加し、適正な花壇の維持管理および地域の美化運動を行うなど、地域住民の模範となっている。

【団体の部】

●小松ケ丘健寿会

―青少年育成・環境美化活動5年間―

公民館広場と公園の除草・清掃と垣根剪定など、年間4回定期的に実施し、地域住民から感謝されている。また、春と秋には、公民館広場に花苗などを植え、子ども達と楽しく過ごす「ふれあい花壇」環境美化に努めるなど、地域住民の模範となっている。

※例年は、表彰が夏に行われていたが、昨年7月～9月（第5波）にかけて県の「感染拡大市町村」指定および緊急事態宣言が発令されていたため、感染者数が少なくなると見込まれる1月に変更されて行われる筈であったが、年明けとともに感染者数が拡大（第6波）し、中止となった。

後期公民館講座

1 初心者限定！基礎から学ぶ 初めての一眼レフカメラ
使いこなして、ベストshotを。

2 ためになる♪季節の花講座
素敵に飾ろう！クリスマス＆お正月のお飾り

3 からだを整える バランスボール講座
柔軟性と全身の筋肉を身に付けます。

4 週末のリフレッシュヨガ
週末の疲れをゆっくりとした動きでリフレッシュ！

5 ハザードマップの見方講座
日頃から備えて、災害の備え！

6 （オンライン講座） 認知症のキホンとホント
介護の不安を学んで解消して。

こうすると、きれいに撮れるのね。

麻布で素敵なお飾り出来ました。

ボールを手のひらのせて、いい姿勢！

姿勢が素敵！

ここが、危険箇所なのですね。

新年度公民館講座は4月に募集開始です！
たくさんのご応募お待ちしております！

東日本大震災から10年
“３・11の証言”

昨年は、2011（平成23）年３月11日午後２時46分に発生した東日本大震災（未曾有の災害）から節目の10年目となりました。そこで、当時の出来事を振り返り、近い将来に起こり得る震災の備えに向けて『３・11の証言』として寄稿して頂きました。

（文化広報部　部長　岡田　孝之）

東日本大震災の経験を振り返って

佐野隆之（四中地区公民館指導員）

私は、平成21年（２００９年）４月１日から東小学校の校長として勤務させていただきました。地震が発生したのは、赴任して２年目の年度末でした。その日は、卒業奉仕作業の日でした。

私はグランドのビオトープ清掃のグループと一緒に清掃をしていました。アサザの株を並べていた時に地震が起きました。すごい揺れだったことをよく覚えています。心配になり校舎の方を振り返ると、職員室前の大きな水槽を清掃していた先生が「大変です。すごい揺れで水がこぼれました。中にいた魚も飛び出しています。」と外に出て私に教えてくれました。私も必死になって玄関前の銀杏の木のところまで走っていきました。そのあとすぐに緊急放送で「すぐにグランドの中央付近に避難してください。」と連絡をしました。まだ揺れが続いていたので全員が無事に避難できるかとても心配しました。校舎がつぶれてしまわないか不安になるような揺れが続いていたので、校舎が見えないように背を向けて座らせました。こわくて泣きそうな表情の子がたくさんいました。テレビを見る余裕がまったくありませんでしたので、ラジオが唯一の情報源でした。

その後、保護者の方へ連絡をし、迎えに来てもらいました。そうこうしているうちに、空が暗くなり、みぞれが降ってきました。寒くてガタガタ震えている子も沢山いました。迎えに来れない保護者の方からは、「今、水戸にいて渋滞が起きています。」「今、東京にいます。電車が止まっているのですぐに帰れません。」等の内容でした。このあと、どうしても迎えに来れない子供たちを引き受け避難所を開設しました。場所は体育館です。避難所には近くの住民の方も一緒に避難されていました。夕食は保管されていた乾パンなども食べました。東小の職員や市会議員さんたちからおにぎりなどの差し入れがたくさん届きました。体育用マットを布団代わりにし、用意されていた毛布

震災によって校庭に出来た地割れ（写真：市提供）

をかけて休みました。避難所には、校長、教頭、職員有志が一緒に泊りました。翌日、避難所にいた子供たちも保護者の方が迎えに来られ元気に帰って行きました。誰も大きなけがをしないで家に戻れたのが何よりでした。翌日は土曜日でしたので職員に「家まで気をつけてお帰りください。」と話し避難所を閉めました。

東日本大震災の経過を振り返って

末吉　修三（永国台地区長）

地震発生時、私は職場の一室でデスクワークをしていた。建物は耐震補強されていたが、それでも普段の地震とは明らかに異なって大きく揺れた。備え付けの本棚などは全て耐震仕様で転倒する恐れはなかったが、唯一机の傍らの小さい棚が倒れた。被害はこの程度から安堵していたところ、「自宅の安全を確認するため、職場を離れてよい」との館内放送が流れ、一瞬緊張が走った。帰宅する時は、普段施錠しているドアを「開けたままにするように」とのアナウンスを聞き、非常事態の感を強くした。

帰路は、普段と異なった光景であった。交差点の信号が消えているため、車は徐行し互いに譲り合いながら通過していた。幸い、時間はかかったが事故に遭うことなく、無事帰宅できた。

停電は翌朝早めに復旧したが、断水は長く続いた。我が家は、永国台の中でも高いほうに建っている。地震発生後、家内は水道栓を開けて浴槽いっぱいに水を溜めた。案の定、水道はすぐに出なくなった。洗面器一杯だけのお湯で体を洗ったり、トイレは毎回流さないようにしたりと工夫した。いつまで断水が続くかわからないので、不安だった。また、ガソリンスタンドでの給油もできず、あるかないか分からないペットボトル水を求めて車で買い物に出かけるのもためらわれた。この時ほど、水の大切さを感じたことはない。

震災後、市の全額補助で町内に防災井戸を設置することができた。とりあえず、トイレなどの排水に使える水は確保した。さらに費用を投じれば、防災井戸の水を飲用に供にすることはできるが、町会の予算規模ではコストの面で現実的ではない。今後、だれもが利用できる井戸水の浄化技術が開発され、容易に井戸水が飲めるようになることを願っている。

（文化広報部　担当地区長）

3・11の記憶

吉田　礼子（富士崎1丁目ダイアパレス自治会）

あの日は、生涯忘れることができない日となった。私ごとになるが、いつものように出張料理教室から帰って道具等を片付けていると、突然ドーンときた。ただならぬ下からの突き上げだった。横揺れが段々と強くなってしかも今まで経験したことのないような強さ、止めどなく長く感じた。恐怖心にキッチンにしがみつくのが精一杯だった。兎に角玄関ドアを開けてすぐ外に避難した。

ダイアパレスの第一次避難場所は土手になっている。そこに集まってきたのは女性、子ども達、リタイアした高齢者の男性等。その時、防災役員は女性の私、一人のみだった。前の防災会会長のTさんが「高齢者はどうする?」と声掛けを頂き、手書きの高齢者名簿を片手に安否確認をすることに。Iさんのご主人が何でもしますよ、と心強い声掛けをしてくださる。男性2人が階段を14階まで上がって高齢者の方々にお声掛けをし、付き添って1階まで下りてくださった。

時折、余震もあって土手も川風が一層寒く吹き付ける。少し落ち着いた頃、自宅に戻る方もいたが、高齢者の方はエレベータがストップしているので、1階のコミュニティーホール（集会所）に移動して頂く。その後、防災管理者のYさん、防災隊長のYも帰ってきて、リーダーの襷（たすき）をわたす。当マンション居住者は東京、千葉県、水戸方面への通勤者が多い。あの日は、まさしく帰宅困難の状況。

夕方、ありあわせの材料で梅干しのおにぎり、豚汁を若手の女性陣で作ることにした。断水のため、ペットボトルの水で1回だけ米をとぎ、その水も捨てずに野菜を洗い（人参、大根、じゃがいも、牛蒡）、冷蔵庫にあった豚肉等を利用する。卵1パックで厚焼きたまご、沢庵を添えしのぎの夕食を25人分位作った。

ラジオで宮城、福島、岩手の様子を知り、大変な状況だと分かってくる。漆黒の空に下弦の月が煌々と輝いていた。遠く仙台に住む母もこの

月を見ているのだと思うとお腹に力が入り、勇気が湧いてきた。桜川の向かいのウララ2に明かりが灯り、その後、小松町、富士崎町など明るくなるがこちらは一向につかず、ロウソクや懐中電灯だけの明かりだ。パイプ椅子にじっと腰かけていなければならない。背中をさすったり、エコノミー症候群にならない様にふくらはぎを下から上にマッサージする。主人の実家の阿見の様子を見に行ったが、こちらも高齢者世帯、電気がついていたので暖かく一安心。テレビを見て津波による宮城の大川小学校、仙台空港の様子など被害状況を見て、今この日本で起きていることの現実に愕然とした。マンションに戻り、朝7時ころやっと電気がついた。エレベータはその後、点検をして頂きやっと動いた。それでも早い方だった。帰宅困難の方達もそれぞれ大変な思いで帰ってきた。町内の点検、情報収集の一本化等、対応して頂き心強かった。その後2週間、防災備蓄品の配布、カレー、豚汁、酒粕で甘酒を作って届けたり、励まし合った。2回目の日曜日（20日）にはサンデーモーニングとして、コーヒー、トーストで近況を語り合った。ホッとするひと時だった。一つ屋根の下、運命共同体。災害時にはなお一層の温かい思いやりが身にしみる。日頃の意思疎通、地域活動の大切さを再認識した。

（文化広報部　担当地区長）

2011年3月11日 東日本大震災に直面して

石川俊昭（永国東）

尋常な揺れではないな～、仲間達が声高に叫び問う光景でした。

東京・王子にて、仕事上の事故防止訓練を東十条駅で終え、東北新幹線に並行している側道を歩いて移動中、午後3時前だったと思います、ドドド・・・という大きな地鳴り音とともに、線路の架線等を支えている電柱が大きく揺れ、電線は縄跳びの縄のように振れ、橋脚自体も外れ落下するのではないかの勢いを目のあたりにし、恐怖感に戦いたのをよく覚えています。

地震によって**都区内の電車・バス等交通機関の殆どが麻痺状態**となった。夕暮れとともに、赤羽・大宮方面へ歩いて帰宅を試みる多くの人達が挑戦していたように思います。

私が利用している常磐線も完全運休でなす統べもなく、王子の事務所に新聞紙を敷いてのゴロ寝になりましたがやはり眠れませんでしたね。

翌日、交通機関も少しずつ動き出し、常磐線も昼前から取手駅まで運転を再開しましたが、その先、土浦方面は未定ということでしたので、とりあえず取手駅まで行き、そこから牛久駅まで歩くことを選択、4～5時間歩いたように思います。その後、車で迎えに来てもらって帰宅。

職場には、災害時に備えて非常食が備蓄されていたので食事の心配はなく安心でき、またこの教訓から、常に非常用の備えの準備を怠ってはならないことを教わりました。こうした事態の時は、**コンビニや食料品店はまったく機能停止状態**ということを経験しました。

『災害は忘れた頃』といわれていますが、最近は災害が続けて大きく育って、私達に襲い掛かるものと、解釈を変えたほうが良いのでは？・・・と私は思います。

よって、出かけるときは、飴玉等のエネルギー源、絆創膏、携帯ラジオ、スマホ充電器をカバンの片隅に入れています。

帰宅難民と鉄道運転再開

海老澤賢治（永国）

東日本大震災が、発生と同時に鉄道がどのような影響を受けたかについて調べてみました。

3月11日午後2時46分、大きな揺れと同時に、鉄道が運転停止し、その後の運転続行が不能となる。その日のうちに地下鉄と一部の私鉄が運転を再開したものの、JRについては線路状況および駅の被害状況確認に時間を要し、駅構内における混乱を避けるため、早々と退勤時間帯に入る前に、翌日以降の運転再開となる旨を発表した。主要なターミナル駅ではバスやタクシーを待つ長蛇の列ができ、また徒歩で自宅をめざす者もおり、通勤・通学帰りの大勢の方が帰宅困難（いわゆる帰宅難民）状態となり、駅前やホテル等で夜を明かし、運転再開を待つことになった。

震災当時の運転再開が詳細に掲載された「日本鉄道旅行地図帳　東日本大震災の記録（新潮社・平成23年8月発行）」によると、翌日に都心

の山手線・京浜東北線が午前9時前後に、常磐線の上野～取手間が午前10時過ぎに運転を再開したけれども、取手～土浦間については震災から1週間後（18日）、さらに土浦以北（勝田まで）については月末（31日）の運転再開となっている（途中区間における線路の盛り土沈下とレールの変状および駅の構築物が破損したため）。また、つくばエクスプレスが全線で運転再開したのは震災から2日後の13日となっている。

一方、高速バスは、高速道路が緊急車両および震災地救援車両等の通行専用のため数日間、運休となった。

（文化広報部）

東日本大震災を体験して

栗原　亮（千鳥ヶ丘）

茨城県は地震が多くあるが、筆者の体験ではこれほど大きい地震はなかった。筆者が退職して二年目の二〇一一年三月十一日午後二時四十六分であった。その時は居間にいて、地震に気がついた時には、地震の規模はそれほど大きいとは思わなかった。しばらくすると、急に横揺れがひどくなった。本棚が崩れそうになり、本棚を押さえようとしたが、段々と揺れがひどくなり、部屋の中央で揺れが収まるのを待った。報道では揺れが六分続いたという。筆者の体験では揺れている時間は長く、いつ収まるのか気が気ではなかった。隣の部屋には母がおり、声をかけ無事を確認した。その揺れがやっと収まり、母の部屋に行き、何もなかったことを確認した。

居間は本が少し落ちていただけで、被害は大きくなかった。台所を確認したが、観音扉ではなかったので、食器等は飛び出していなかった。二階の本棚から本が崩れ落ちて散乱し、翌日片付けたが、大変であった。家全体はそれほどやられなかったが、障子や戸の開けたてがよくできなくなった箇所があった。我が家は瓦に異常は見られなかった。市内では家が傾き建て替えた家もあったように聞いているが、千鳥ヶ丘町は地盤が安定し、家が傾いた家は一軒もなかった。

東日本大震災では、東北地方では津波による被害で数万人の命が失われた。北茨城市では、津波で亡くなった人が数名いた。茨城県の被害は石岡市以北で鉄道線路が曲がったり、駅が壊れたりした。土浦市では国民宿舎・プールが壊れ、使えなくなった。旧土浦市役所の高台からは、ブルーシートのかかった家が多く見え、被害の甚大さを知った。関東大震災では荒川沖と土浦の間で脱線事故があり、三九名の命が失われた（『茨城県史年表』）が、そのような事故がなかったのは幸いである。土浦市は地震や台風があった場合には、どこの町内どのような被害があったのか、きちんと記録を残し、次の災害に備えるべきだろう。

（文化広報部）

東日本大震災の経験を地域で語り継ごう

井坂正典（天川）

10年前の悪夢

２０１１年３月11日（金）14時46分。宮城県沖を震源とする大地震が発生しました。津波や福島原発事故など未曾有の被害を出した東日本大震災。私たちの地域でも大きな被害が発生しました。

私は、その時、市内の先輩が経営するお酒屋さんで何気ない日常の会話をしながらくつろいでいました。突然、揺れとともに店内の陳列棚からお酒やワインがばたばたと床に落ち、もうあっという間に水浸しになりました。数百本のお酒がすべて割れてまるで造り酒屋にいるようでした。

私は、母が一人で家にいたため直ぐにＴＥＬしましたが、つながりません。家までは5キロぐらいだったのですが約1時間かけて戻りました。幸い母は無事でしたが案の定、家の中は、食器やガラス類のものが散乱して足の踏み場もないくらいでした。こんなことがあるのかと夢を見ているようでした。日が暮れて、電気も水もガスも使えません。あるところでは、そんな状況下の中で焚火をして暖と灯りをとっていた家族もありましたが、今考えるとその火が燃え移り、２次災害・３次災害につながらなくてよかったと思います。

あれから10年

天川町内会では、天川自主防災会の活動を通して、災害時の町民の相互協力や防災意識を高めていく活動を継続しています。特に民生委員との連携を図り、要援護者の支援に力を入れ、土浦市とも協定を結んでいます。

災害時には、パニックになりがちですが、まずは、自分の命を守りそして家族・地域を災害から守っていかなければなりません。引き続き天川自主防災会の活動は重要になってきます。

これから10年

東日本大震災を経験した人すべてに言えることは、この災害経験を風化させずに未来につなげていかなければならないと思います。

福島第2原発事故により故郷を追われた被災者もまだ多く取り残され、霞ケ浦にも半減期30年と言われる放射線物質が取り残されています。

災害は忘れたころにやってくる。このことを思い出させてくれた四中地区市民委員会文化広報部長に感謝をしつつ、これからも地域で共に防災意識を持ちながら、穏やかな日々を過ごしていきたいと思います。

東日本大震災を体験して

野口貴代（下高津）

二〇一一年三月十一日十四時四十六分、東日本大震災が起きる。

我が家では、丁度、長男が土浦市の国際交流事業の一環で中学生国際交流事業に参加するため、渡米の準備をしていた。

翌日（十二日）は、土浦市と姉妹都市アメリカ合衆国パロアルト市へ出発する日だった。地震当日も、ホスト先への持ち物の最終買い出しに出掛けていた。昼過ぎに帰宅し、遅い昼食を取り、ゆっくりしていたところ、激しい揺れに襲われた。そのうち、学校より子供を迎えに来るようにと連絡が入る。が、続く余震で、足が竦み、前に出ない。困った。徒歩で迎えに行くのに、下小への裏山を登るのはようやくのことだった。近いはずの学校が、着いた時には、最後の方の迎えになってしまった。当時、五年生だった次女に様子を聞くと、怖くて泣いていた子もいたと言う。近所の低学年の子供は、地震発生時、下校最中だった。この裏山で遭遇し、とても怖かったと言っていた。山が崩れることなく、無事帰宅出来て良かった。

高校生の長女は、近くの私立高校だったので自転車通学し、四中に通う長男も、特に困難なく帰宅出来た。長女は、地震発生時、校舎最上階に居たので、揺れが激しくとても怖かったそうだ。電車通学や県外から通学していた人は、学校に泊り帰れなかったようだ。この時は、家族皆、通う学校が近くて良かったと思った。

ところで明日、長男は、予定通り出発出来るのか？当日集合時間が近づいても、主催者と連絡が取れなかったが、やっと中止の連絡が入る。しかし、この事業が、中止になるのか、延期になるのかについて、後日連絡が入り、福島原発のメルトダウンの事故があったので、パロアルトからも留学生は来ないことになった。そして、こちらも行ける目途が立たないので、この年の交換留学事業は、中止となってしまった。数か月前から英語の研修を受け、準備をしてきたけれども残念な結果となってしまった。生徒さん達の話し合いで、せめてスカイプで話は出来ないかという話もあがったが難しいとのこと、結局用意していたお土産をホスト先と交換となり、この事業は終わった。

我が家の被害は、壁にヒビが入り、棚が曲がったり、花瓶が倒れ水がこぼれたくらいで、大きな損傷はなかった。主人は当時、単身赴任中でつくばみらい市に在住。社宅は大丈夫だったが、職場の窓ガラスが割れ、停電が続き、金融機関に勤務していたので、職場を離れられず、職場に泊っていたようだ。

こちらは、電気が翌日に復旧したものの、断水が続き、給水車のある所まで水汲みに行ったり、近所の井戸水を頂いたりしたが、入浴出来ず。コンビニからも品物がなくなり、ガソリンスタンドは長蛇の車列が続いた。四日が経っても、断水は続き、家族で主人の社宅へ入浴しに行く。未だ寒い日もあり、入浴は、身体が温まり、肌荒れも改善してくれた。

この福島でのメルトダウンでの影響、テレビのCMは自粛し、その代りに金子みすゞのポエムが流れ、報道されるのは今まで見たこともない衝撃的な映像ばかり。翌朝も、長野北部でも震度6強、6弱を二回の地震発生、この世の終わりか？もう生きていけないのではないか。暫く余震も続いたので、不安を感じながら毎日生活を送っていたのを思い出される。

最近また、全国各地で地震が多い。今後もいつ災害が来るのか分からない。何もないことを祈りながら、備えよ！常にを胸に、日々の生活を送りたい。

（文化広報部）

震災当時の公民館

里村厚子
（四中地区公民館）

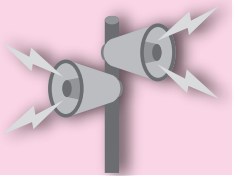
今までに経験したことのない揺れに驚きながら状況を把握するために、テレビをつけました。まずは公民館を利用中の皆さんを避難させなければと各部屋へ走りながら声を掛けて回ったことを覚えています。

当時の矢口館長が、下高津の高台にあった旧市役所本庁舎から慌てて帰って来て「今、ラジオを聴きながら帰って来たけど、凄いことになっている。」と言われ、テレビを見ようとすると先程つけた筈のテレビが消えており、館内が停電になっていることに初めて気付きました。急いで帰宅する利用者さんもいましたが、公民館玄関前の広場に避難して集まっている間、公用車から流れてくるラジオの音声と余震に、「怖い。」「また揺れた。」「まだ揺れている。」の声が、あちらこちらから上がっていました。揺れが収まり事務室に戻ってみると机の引き出しが全部飛び出していて、どんなに揺れたのかと怖くなりました。ただ、けが

（次ページへ続く）

防災行政無線放送の逸話

文化広報部　副部長　海老澤　賢治



私の記憶ですが、確か平成20年から市内の小・中学校、地区・町内公民館、公園等の敷地の片隅に防災行政無線塔が立ち始め、平成22年中に完成した。

いよいよ、平成23年4月から本格運用を開始するにあたり、3月9日～11日にかけて夕方5時に1分間の試験放送で準備が進められていた。ところが、最終日の3月11日午後2時46分、突然、東日本大震災が発生し、前倒しの本格運用の放送が開始された。連日、無線塔のスピーカーからは避難所、震災瓦礫の集積場所、給水時間等の案内が流れていた。市内一斉に放送しているため、場所によっては、遠い所にある無線塔のスピーカーから時間差でアナウンスが流れて聞こえるため、ちょうどエコーが掛かったように重なって聞こえ、聞きづらいという指摘がされていた（現在、時報以外は地区ごとに遅らせて放送しているため解消）。

私が当の文化広報部員（平成22年度）になって間もない頃、広報紙編集担当をされていた先輩が、写真のようなスピーカーについて市役所の総務課を取材し、トピックス『防災行政無線の案内』の記事として、当紙第13号（２０１１年3月15日発行）に、「災害が発生する恐れのある時、災害が発生時に、私たちの身を守る安全のために発せられる情報システムです。四中地区には25本設置され、平成23年4月より運用されます。これは震度5弱の地震、津波、竜巻などの災害から、私たちの命や財産を守るため・・・」というお知らせ記事を掲載するため、最終の印刷校正を終えていざ発行を待つばかりでした。ところが、発行の4日前に震災が発生してしまい、折角のお知らせが後手となり、記事自体が無意味なものになってしまいました。編集者としては、せめてあと1週間遅れて発生して欲しかったといった思いがありました（市の行政としては、震災の防災行政無線放送がタイミング的に間に合って役立った）。

（前ページより）

人が一人も出なかったことが幸いでした。利用者さんが帰った後、私も帰宅しましたが、その夜、館長ひとり公民館で待機したと聞きました。停電の中、「外を走る車のライトだけが見えた。」と話していましたが、心細かったと思います。

公民館は大きな被害はなかったのですが、暫くの間、貸館することは出来ませんでした。震災直後から貯水タンクの水は給水に使用し、公民館の駐車場は震災瓦礫の集積場としてご利用いただきました。被害に見舞われた方もいらしたと思いますが、たくさんの方に公民館の被害や状況をご心配頂き有難いと思いました。節電を促された時は、ロビーに冷たい飲料水をご用意し、皆さんのほっとしたひと時を過ごしていただけたと思います。そして、公民館が皆さんのコミュニティの場だと感じました。これからも変わらずコミュニティの場としてご利用頂きたいです。

〈あとがき〉

東日本大震災から10年が経過したが、近い将来（30年以内）に首都直下地震が起こり得ると言われている。しかもそれを思わせるような地震が、昨年10月7日午後10時45分頃、首都圏で震度5強の地震が10年ぶりに発生した（震源地は千葉県北西部）。この地震により鉄道各社が一時運転を見合わせ（JRは震度4.5以上が発生すると運転停止させて設備の安全点検をすることになっている）。特に、千葉・茨城方面へのJRは翌朝の運転再開となり、緊急事態宣言が解除された直後とあって夜遅く帰宅される多くの方の足に影響が出て、帰宅困難が発生した。

近年の地震は、震度の規模が大きいものが頻繁に発生しており、いつ突然に起こるかもしれない地震と帰宅困難となった場合のために、常日頃から慌てないように準備と帰宅方法を家族内で話し合って決めておくべきと思いました。

最後に、この企画について部長から「10年前のことを今更どうか？」と言われ、節目となる今年しか出来ませんよと答え、ではやってみようかと同意を頂き、編集企画を実行しました。

しかし、企画倒れを覚悟した上で提出締切日を待ちましたが、予想を上回るご協力を頂き感謝しております。その内容は、まるで数日前の出来事かの様に詳しく記述してあり、これが近未来の震災に対する備えのヒントとなれば幸いに思い、この企画が無駄ではなかったことを願いたいです。

昨年暮れ（12月21日）、政府の中央防災会議が、東日本大震災に次ぐ巨大地震の被害想定（冬の深夜に発生した場合）をまとめたものを発表した。それは、岩手県沖から北海道沖にかけての日本海溝・千島海溝で起きる二つの巨大地震。

同巨大地震は、いずれも300～400年以上の間隔で発生しており、先の東日本大震災による海溝の変化の影響を受けていることもあり、東日本大震災の教訓を踏まえて巨大地震の被害想定を見直しして「未曾有の災害対策が急務である」ことを発表したもの。将来、起こり得る地震に向けての備え、という意味で気に掛かりましたので、3・11の証言記事と併せて掲載させて頂きました。

（文化広報部副部長　海老澤　賢治）

《お詫び》

前号（第32・33号合併号）、「わが町の催事への影響」についての永国台記事中（10ページ）、担当地区長広末修三とあるのは、担当地区長末吉修三の誤りでした。訂正のうえ、謹んでお詫び致します。

２年目の新型コロナ感染者（１月15日付）

国内で初の新型コロナ感染者が確認されてから丁度２年目（１月16日付の新聞紙上発表）となった感染者は次の通り。

	感染者累計（a）	１年目の感染者（b）	２年目のみの感染者（a）－（b）
国内全体感染者	1,860,094人（18,444人）	318,487人（4,433人）	1,541,607人（14,011人）
茨城県感染者	25,690人（220人）	3,617人（41人）	22,073人（179人）
土浦市感染者	1,923人	376人	1,547人

（　）内は死者数

チャレンジ クラブ

チャレンジクラブ年間活動報告

（指導員）佐野　隆之

令和3年度四中地区チャレンジクラブ開講式は、5月8日実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となりました。この日はジャグリングにチャレンジしようも中止となりました。そこで6月5日の第2回チャレンジクラブのときに、開講式も合わせてイバライドで実施しました。城取宜由公民館長、飯田美恵子青少年育成部長よりご挨拶を頂き、スタートしました。イバライドでは、ハーバリウム作りにチャレンジしました。竹べらを使って色々なかわいい花を瓶に入れ配置を整えてからオイルを入れました。それぞれにとても素敵なハーバリウムを作ることができました。午後の牛久大仏では、記念写真を撮った後世界最大120ｍの大仏様の体内に入りエレベーターで地上85ｍの展望台に向かいました。とても眺めがよく遠くの景色を思う存分楽しむことができました。東京のスカイツリーが見えた時には、早くコロナウイルスが終息し、また、みんなで見学出来たらいいなと思いました。

7月　おもしろ理科実験（モーター作り）
10月　親子で防災食（中止）
10月　チャレンジ屋へようこそ（中止）
10月　森林林業体験学習
11月　座禅にチャレンジ
12月　おもしろ理科実験（電池作り）
1月　バランスボール
2月　ハッスル肉まんと閉講式

新型コロナウイルス感染症の影響で活動は「3密」を避けてソーシャルディスタンスを意識しながら行いました。実施回数や参加人数も減りいろいろと大変だったこともあったと思います。チャレンジクラブの延期や中止の件についてのメールを送ったときなど「新型コロナウイルスがなかなか落ち着かず息子が残念がっております。」などの返信があったときには、とてもうれしかったです。

一年間の活動を通して一人ひとりのチャレンジクラブ員の皆さんが大きく成長できましたのも青少年育成部の皆様方のサポートのお陰です。本当にありがとうございました。

チャレンジクラブの思い出

下高津小学校　6年　塚原　縁

昨年はチャレンジクラブがあまりできず、がっかりしていた私でしたが、今年は楽しいことがたくさんできました。1つ目はイバライドと牛久大仏です。イバライドでは、ハーバリウムを作りました。きれいにできてよかったです。牛久大仏では、べっこうあめを買いました。とてもおいしかったです。2つ目は、おもしろ理科実験です。電磁石を生かした実験をしたりして興味深かったです。3つ目の森林林業体験学習では、丸太を切ったり、竹とんぼを作ったりしてまた行きたいと思いました。またたくさん思い出を作りたいです。

牛久大仏の前で記念撮影

トピックス

土浦第二小学校合唱団が、全日本合唱コンクール全国大会　銀賞受賞

合唱コンクールが2年ぶりに開催され、土浦第二小学校は、昨年夏、「NHK全国学校音楽コンクール茨城県コンクール」(Nコン)と「全日本合唱コンクール　茨城県大会」のダブル金賞を受賞。

今年のNコンは、コロナ禍の中、感染防止対策としてマスクを着用しての合唱であったが、素晴らしい歌声で発表され金賞を受賞。また、全日本合唱コンクールは録音審査で行われ〝金賞〟を受賞。

茨城県代表校として出場した結果は、前回と同様に「全国学校音楽コンクール関東甲信越コンクール」(10月10日、埼玉県大宮市)では奨励賞を、さらに「第74回全国合唱コンクール　全国大会」(11月6日、埼玉県所沢市)では代表校32校の中で『銀賞』を受賞した。日々の練習成果が十分に発揮され、受賞に輝いた。

※学校だより「ふじつかのかぜ」を参照して作成。

ミニ・ニュース

花いっぱい運動コンクール

●優良賞を受賞

昨年夏、令和3年度「第50回花いっぱい運動コンクール」(主催：まちづくり市民会議)において、四中地区市民委員会が、優良賞を受賞しました。

事務局より

新型コロナウイルスの流行からもう2年も経ってしまいました。感染を少しでも抑えるため日々頑張っている全ての皆さま、本当にありがとうございます。原稿執筆時点では流行が下火になり少しずつ日常が戻りはじめていますが、さて、3月にはどうなっているでしょうか？少しでも良い未来になるよう、できることに取り組んでいきたいと思います。

●職員紹介

館長（所長）	清水　剛
主　幹	登坂　繭
指導員	佐野　隆之
社会福祉協議会	中根　一幸
窓口事務	里村　厚子
窓口事務	於本　園恵

編集後記

今年度も新型コロナウイルスで、殆どの活動が中止となりました。

このような中、昨年は、東日本大震災から10年が経過し、皆々さまの経験されました10年前の記憶を、この広報紙『ふれあいひろば』に掲載し、第34・35号との合併号と致しまして発行する運びとなりました。お忙しい中、執筆にご協力くださいました方々に深く御礼を申し上げます。

今後とも、四中地区の様々なご意見を頂戴しながら活動し、お手伝い致しまして、更なる地域の繋がりが深まれば幸いに存じます。ありがとうございました。

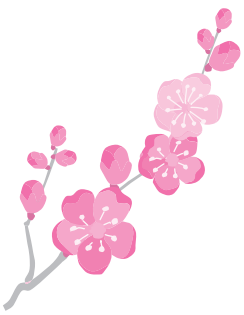
（野口）

今年も、まもなく東日本大震災から11年目を迎えますが、3・11で経験した出来事の記憶が経年の変化で薄れることなく、節目となる10年目に『3・11の証言』として記録に残すことが出来ます。お忙しい中、原稿執筆にご協力頂きました皆様方にお礼を申し上げます。

11年前、震災直後から『頑張ろう東北（日本）』を謳い文句に〝絆〟の輪（励まし合い助け合う心）が広まりましたが、それも令和に入り、新型コロナウイルス禍によって人と人との接触が制限され、〝絆〟が断ち切られてしまったように思える。

しかし、感染拡大を防ぐために、感染リスクが高いエリアへ行って感染しない。家族や友人・知人等周囲の人を感染させないこと。これも隠れた〝絆〟と思う。すなわち「見える〝絆〟」から「見えない〝絆〟」に変化したかのように、私にはみえます。

（海老澤）



VEGETABLE OIL INK　環境に配慮し、再生紙・植物油インキを使用しています。